

日本学術会議 健康・生活科学委員会
パブリックヘルス科学分科会（第26期・第6回） 議事録

日時：令和7年3月3日（月）9:00～10:40（オンライン会議）

場所：オンライン会議

出席：玉腰、秋葉、磯、井上、今中、瓜生原、金子、川上、久保庭、小林、後藤、田高、田淵、
中村、野原、橋本（敬称略）

欠席：田中、多屋、野口、芳賀、東、森（敬称略）

議題：

1) 提言「わが国の機能性食品制度に関わる課題とその対応」（食料科学委員会・農学委員会
合同食の安全分科会、食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会、食料科学委員
会・農学委員会合同農芸化学分科会、薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同
毒性学分科会）（原案）に対する、パブリックヘルス科学分科会の立場について

・前回（第5回）に引き続き検討が行われた。その結果、原案については主に以下の懸念が払拭できないことから、本分科会として名前を連ねることはできない、という前回の結論が再確認された。

主な懸念点

- ・科学的に必要なエビデンスや国内外の議論が十分に示されているとは言えない、
- ・関係者の利益相反について十分な確認がなされているかどうかについて不明である、
- ・本分科会の支持は、国民に対する機能性食品に関する誤解を与えるおそれがある、他

・一方で、これらの懸念点について十分な議論がなされ、かつ適切に改訂された場合には、日本学術会議としての意志の発出を推進する観点から、本分科会として名前を連ねることについて再検討する余地がある、との結論に至った。

・上記を受け、磯委員による改訂案に各委員の意見（当該分科会に対する見直しを求める箇所等を含む）を反映した版を作成のうえ（2025年3月8日まで）、食の安全分科会に返送し、その結果を踏まえ、本分科会の立場について最終的な検討を行うこととなった。

2) 見解「加熱式タバコ使用を含めた喫煙行動の調査・モニタリングの必要性について人材育成について」（健康・生活科学委員会パブリックヘルス科学分科会）（案）について

原案（田淵委員主筆）について、検討された。その結果、おおむね原案どおり了承され、今後、各委員の意見を反映した版をもって（→2025年3月末まで）、2025年度中の発出を目指すこととなった。なお、意志の発出の主体については、本分科会単独とするか、関連分科会との共同とするかについては、委員長を中心に検討することとなった。

以上

次回：未定（別途調整）